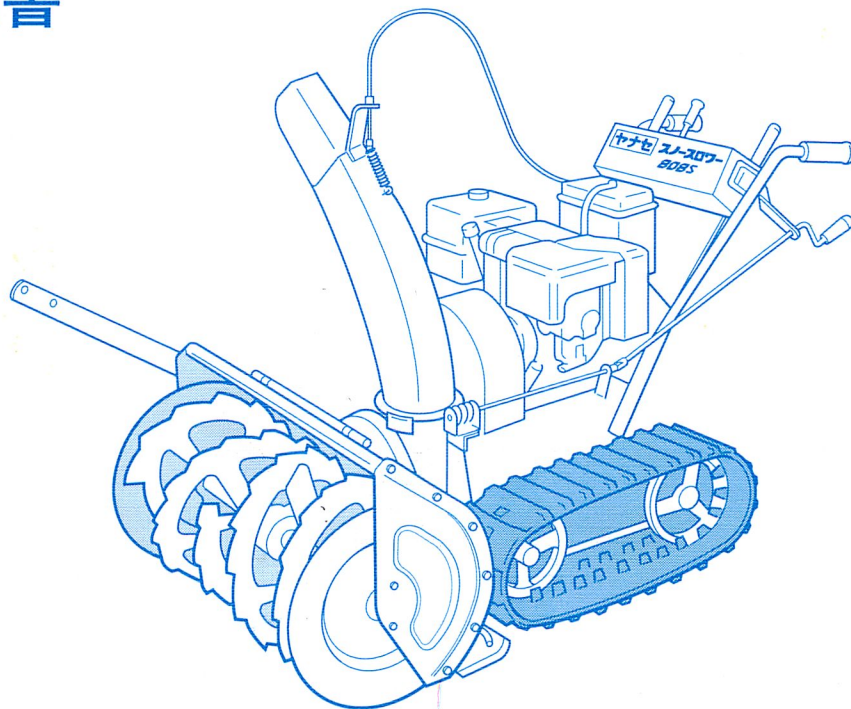


正しい操作で、安全除雪

# スノースロワ-8085

## 取扱説明書



ヤナセ

# 正しい操作で安全除雪

このたびは、ヤナセのクローラ型除雪機スノースロワー 808Sをお買い求めいただき、誠に有難うございました。

ご使用いただくまえにこの取扱説明書をよくお読みになって、本機の性能を十分に発揮され、末永くご愛用くださるようお願いいたします。

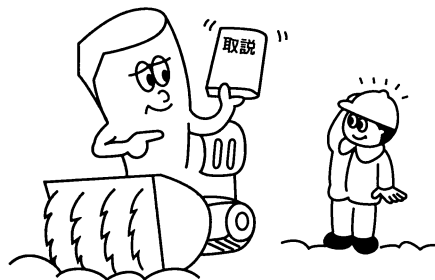
## 目 次

安全のために .....	2
各部の名称 .....	4
仕業点検 .....	5
エンジンの始動と停止 .....	8
運転操作 .....	11
本体の点検と調整 .....	19
エンジンの点検と調整 .....	28
保管について .....	34
配線図 .....	35
性能・諸元表 .....	36
保証について .....	36

# 正しい操作で安全除雪

## 安全のために!!

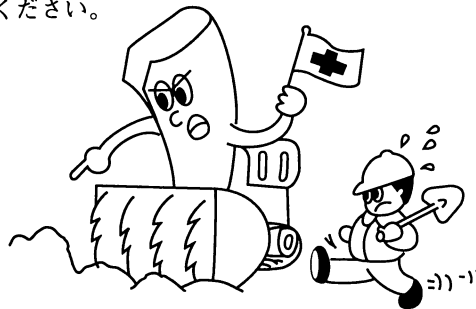
- 1** ご使用まえには、必ず取扱説明書を読み、正しい操作を覚えてから運転してください。



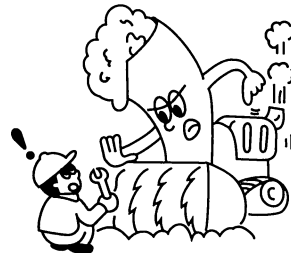
- 3** 運転中は周囲に人、特に子供を近づけないようご注意ください。



- 2** 石や氷塊は意外に遠くに飛ぶことがありますので、投雪方向の安全には十分に気をつけてください。

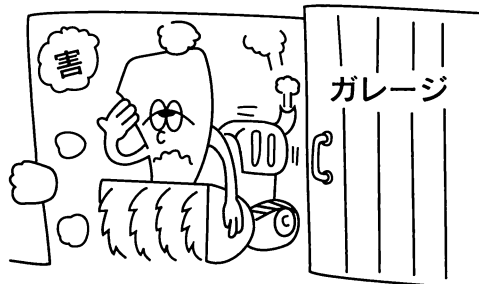


- 4** シャーボルトの交換、シュートの雪詰りなどのため回転部分に手をふれる場合は、必ずエンジンを止め、エンジンキーを外して、不意の始動による事故を防いでください。

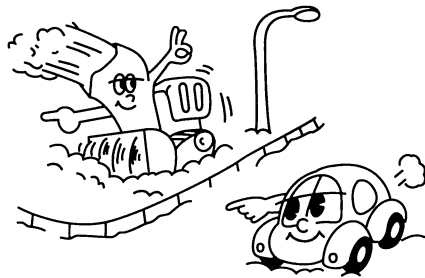


# 正しい操作で安全除雪

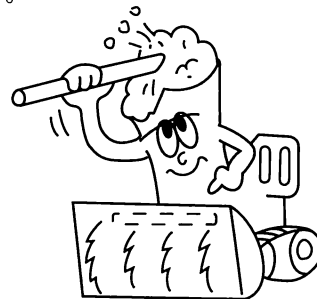
- 5** エンジンの排気ガスは有害です！  
ガレージ内、その他換気の悪い所での運転は  
おやめください。



- 7** 歩道や車の通る道などを除雪する際は、車に  
対して十分に注意するほか、投雪方向の安全  
も確認してください。



- 6** シュートの雪詰りを除くときは、付属の木棒  
を使用し、手を入れることは、絶対にしないで  
ください。



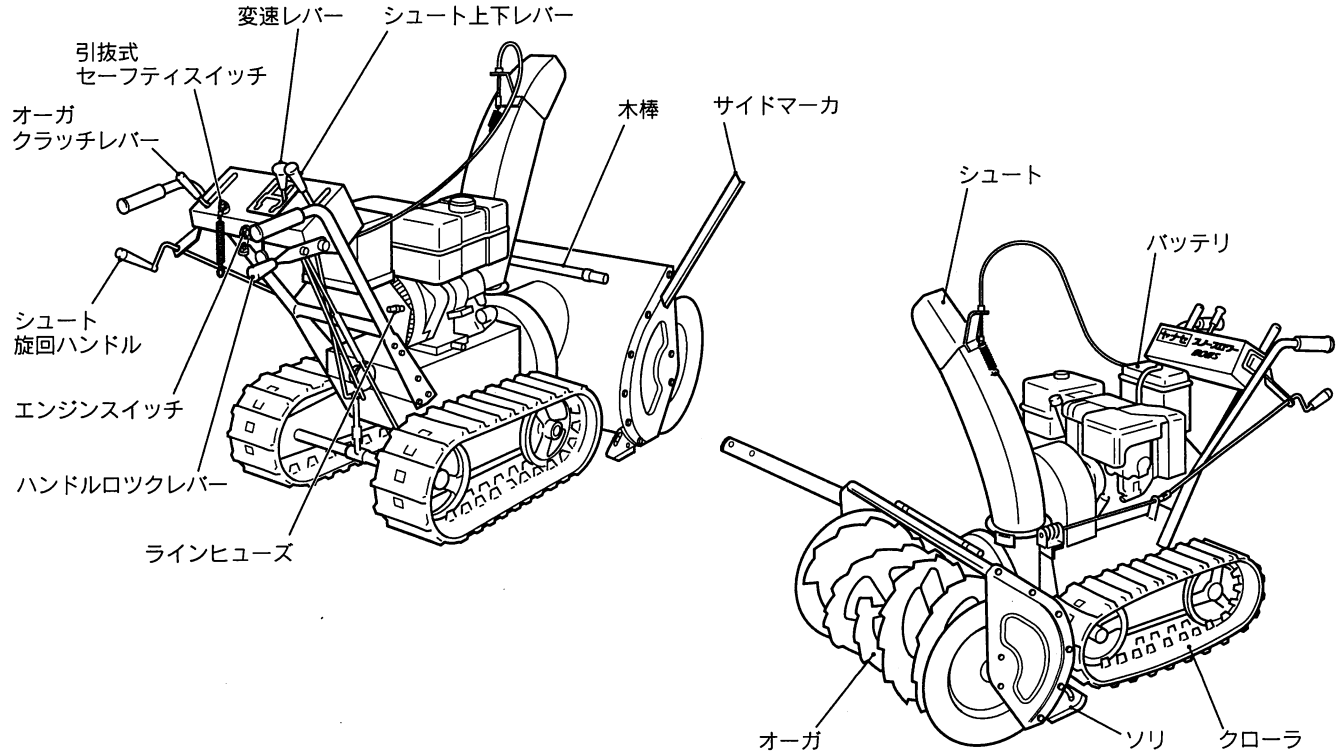
- 8** 大型除雪機がはねのけた雪や、屋根から落ちた  
氷まじりの雪、踏み固められた雪などの除雪は  
困難な場合があります。機械を無理に押込んだり、  
振り回したりすることはおやめください。

\* このようなときは  
スコップで氷雪を  
砕いてから  
除雪してく  
ださい。



# 正しい操作で安全除雪

## 各部の名称

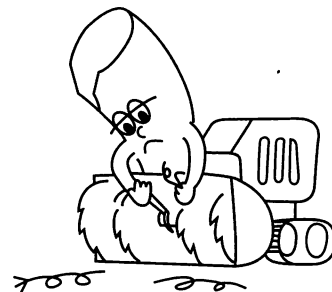
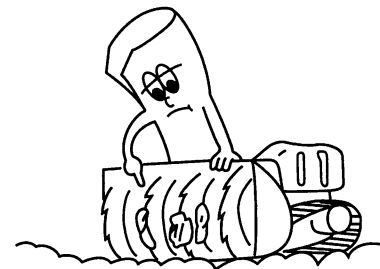
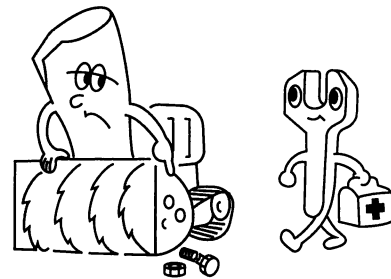


# 正しい操作で安全除雪

## 仕業点検

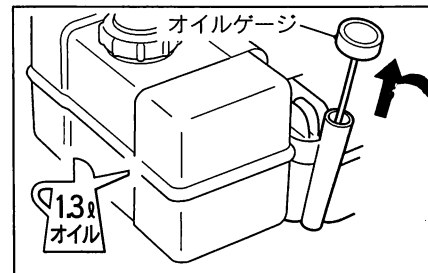
仕業のまえに次の項目を毎日チェックしてから始動してください。

- 1) ボルト、ナット類がゆるんでいると本機の寿命を著しく短くし、また本機損傷の原因となりますので、ゆるみがないかよくチェックしてください。特に、シャーボルトは必ず増締めを行ってください。
- 2) 始動前には、ブロワ部およびクローラ、その他の回転ハンドルなどが凍結していないかを確認し、凍結している場合は氷雪を取除いてください。
- 3) ブロワおよびオーガ軸に、針金または荷作り用のヒモなどが巻付いていると、オイルシールなどを損傷しますので、必ずチェックして取除いてください。
- 4) 各ハンドル、レバー類の動きに異常はないか確認してください。調整が必要な場合は、「本体の点検と調整」の項を参照して調整してください。→ P19 参照



# 正しい操作で安全除雪

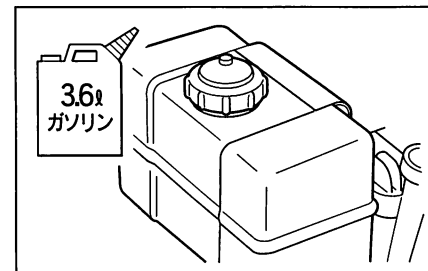
- 5) エンジンオイルは毎日点検してください。オイルが規定量であるかゲージで点検し、不足の場合は給油してください。(容量1.3ℓ) → P28 参照



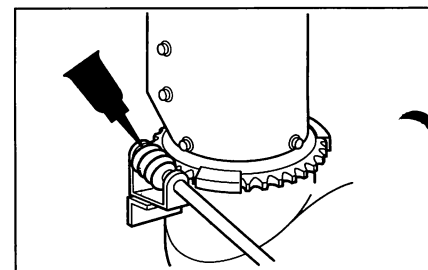
- 6) 燃料タンクには、必ずガソリンを満タンにしてください。(容量3.6ℓ) 運転中の燃料切れを予防します。

## 【注意】

- ガソリン給油時は、必ずエンジンを停止してください。

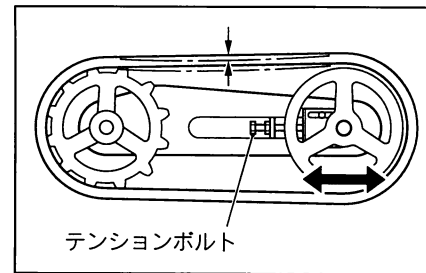


- 7) シュート部のシュート取付台とウォームギヤとの噛合部や各バンドル支点部分などの滑動部にはオイルを毎日注油してください。



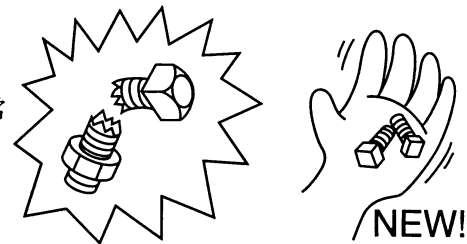
# 正しい操作で安全除雪

- 8) クローラの張りが弱すぎる場合には、テンションボルトで張り調整をしてください。 → P24 参照



- 9) バッテリーが充電されているか確認してください。  
充電の方法は、バッテリーメーカーの指示にしたがってください。

- 10) 予備のシャーボルトを、運転中の切断などに備えて必ず何本か工具箱の中に常備してください。



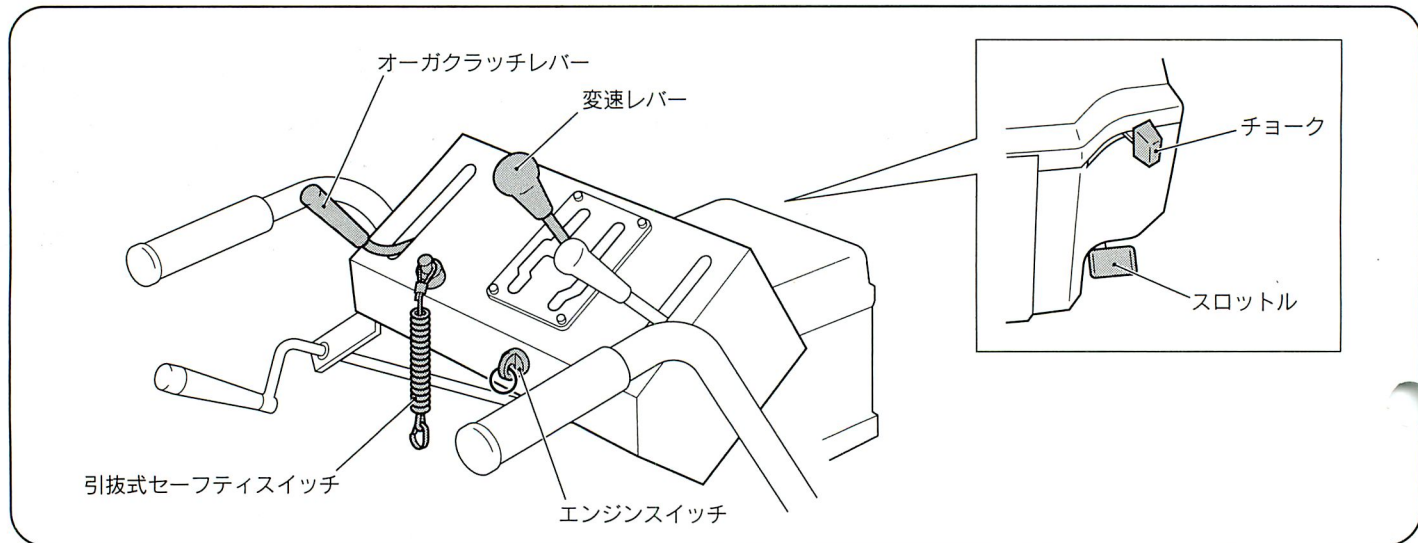


# 正しい操作で安全除雪

## エンジンの始動と停止

### 【注意】

- オーガクラッチレバー **切**、変速レバー **中立** の位置で引抜き式セーフティスイッチを運転の位置 (差込んだ状態) にセットしないとエンジンは始動しません。
- 充電回路およびランプ回路に異常電流が流れた場合ヒューズが切れ回路を保護します。  
エンジン運転中にヒューズが切れてもエンジンが停止することはありませんが次に始動するときは、エンジンスイッチをスタートに回しても始動しません。(ヒューズ規格容量 10A、長さ 30mm)
- エンジンの始動に必要な操作部は、次の箇所です。



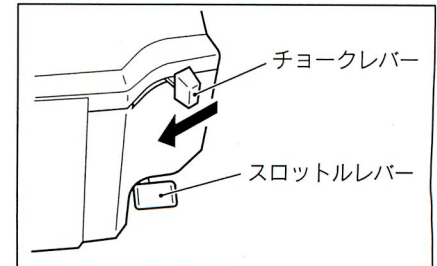
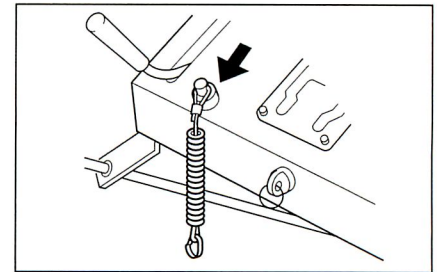
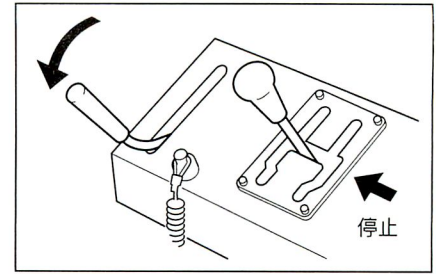
# 正しい操作で安全除雪

## ■始動方法

1) オーガクラッチレバーを **切** にし、変速レバーを **中立** にします。

2) 引抜式セーフティスイッチをセットします。

3) スロットルレバーを中間位置にし、チョークレバーを左へスライドさせます。

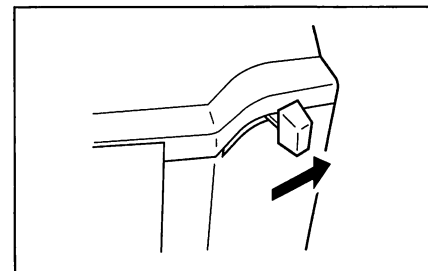
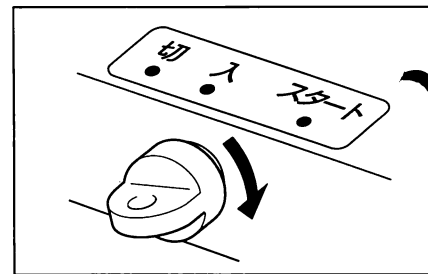


# 正しい操作で安全除雪

4) エンジンスイッチを「スタート」の位置へ回します。始動し、エンジンが暖まりましたらチョークを徐々に戻します。

## 【注意】

- 1回で始動せず再始動をする際フライホイールが、止まっていることを必ず確認の上、再始動してください。
- セルモータは15秒以上連続して使用しないでください。

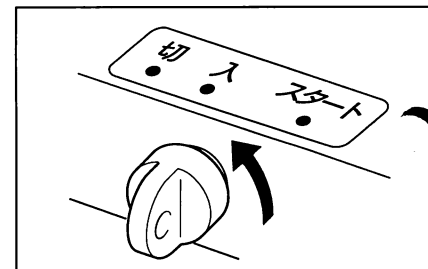


## ■停止

エンジンスイッチを「切」の位置にします。

## 【注意】

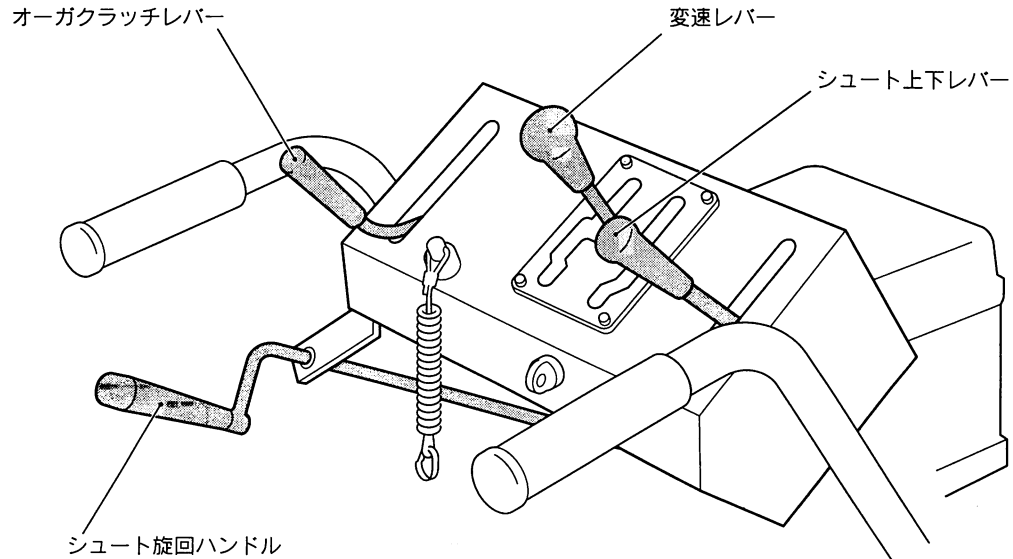
- エンジンを停止させる前には必ず変速レバーを「中立」にし、更にオーガクラッチレバーを「切」にしてください。



# 正しい操作で安全除雪

## 運転操作

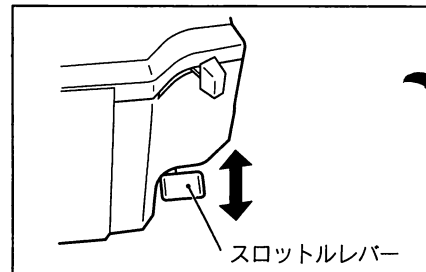
■運転に必要なレバー類は、次の箇所です。



# 正しい操作で安全除雪

## ●スロットルレバー

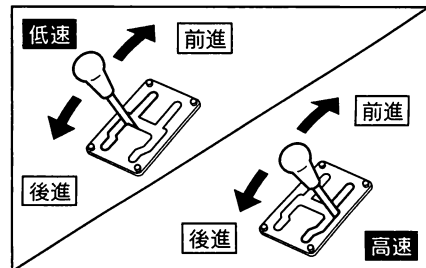
除雪量が少ない場合などには必要に応じて、エンジンの回転速度を調整してください。



## ●変速レバー

レバーを**低速**または**高速**の位置に合わせて前に倒すと**前進**し、後に倒すと**後進**します。

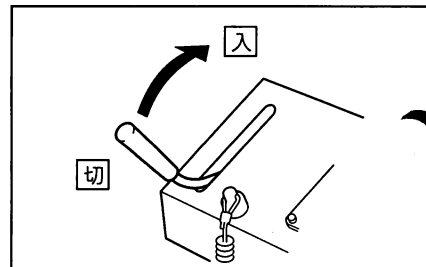
停止のときは中立の位置にして停めます。



## ●オーガクラッチレバー

レバーをゆっくりと**入**にしてください。オーガとブロワが駆動します。

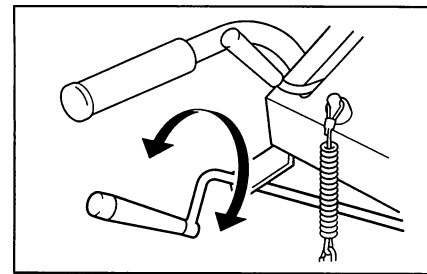
停止のときは、必ずレバーを**切**にして停めます。



# 正しい操作で安全除雪

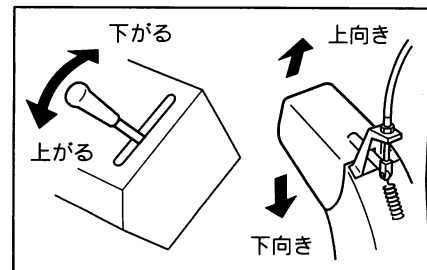
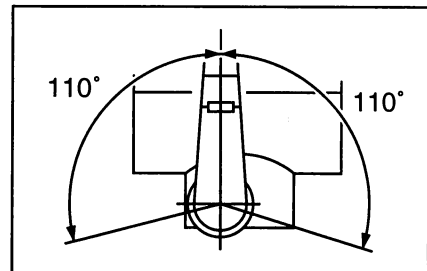
## ●シュート旋回ハンドル

投雪の方向を左右各  $110^{\circ}$  の範囲で変えられます。



## ●シュート上下レバー

レバーを前方へ倒すとシュートキャップは下向きになり手前に引くと上向きになります。

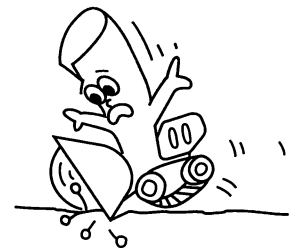


# 正しい操作で安全除雪

## ■運転の順序

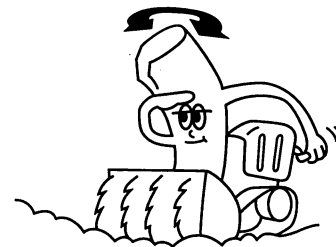
- 1) 雪の性質、量により変速レバーで速度を選択します。

通常の除雪作業時には「**低速**」、軽雪、量の少ない雪、移動時には「**高速**」でも作業できますが、操作、作業になれるまでは「**低速**」で作業をしてください。



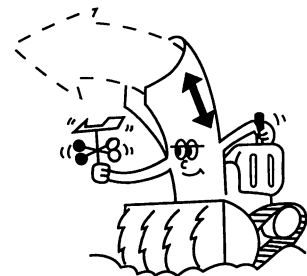
- 2) シュート旋回ハンドルで投雪方向を定めます。

投雪方向の安全をよく確認してください。



- 3) シュート上下レバーで投雪距離を調整します。

投雪距離は風向の影響を受けやすく、またブロワの回転方向が右方向である関係から左右方向への投雪は、多少距離に違いがあります。

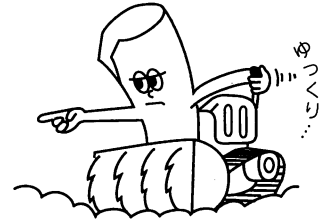


# 正しい操作で安全除雪

- 4) スロットルレバーを操作し、エンジン回転を **高速** にします。軽い雪や量の少ない場合は、回転を少し下げてください。
- 5) オーガクラッチレバーを **入** にし、オーガとブロウを回転させます。この際、投雪方向などに危険がないか再度確認のうえ、徐々に入れてください。
- 6) 変速レバーを **前進** 側に倒しますと、作業の開始となります。
- 7) 作業が終わりましたら、変速レバーを **中立**、オーガクラッチレバーを **切** にし、エンジンスイッチを **切** の位置にします。

## 【注意】

- 傾斜地では停止させないでください。





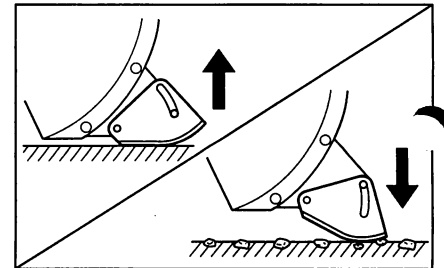
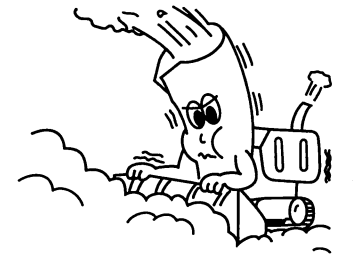
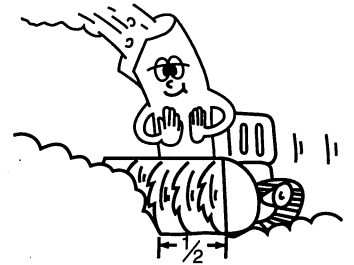
# 正しい操作で安全除雪

## ■除雪作業の要領

- 雪が浅い場合や軽い雪のときは最大出力以内での作業が可能であり、燃料の節約になるため、スロットルレバーを「高速」から少し下げてください。
- 重い雪や雪が深い場合は、オーガ巾いっぱいを使用しないで除雪巾を少なくしますと楽に除雪できます。
- 重い雪や雪が深い所などでは負荷が一時的に大きくなる場合があります。そのときは、変速レバーを「中立」に戻して負荷を取除いてから除雪してください。

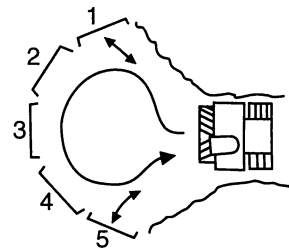
## 【注意】

- エンジンの回転が下がったまま無理な運転を続けると、エンジンの寿命を短くしたり、重大な故障のもとになります。
- 路面の状況に応じてソリの高さを調整します。  
整地された路面（アスファルト路面）を除雪するときは、ソリを上にあげ路面すれすれまで除雪します。  
不整地では石にかみ込みをさけるため、ソリを下げ、オーガを浮かせて除雪します。

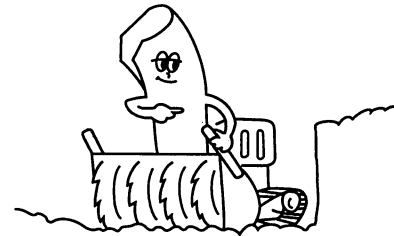


# 正しい操作で安全除雪

●雪が深い中では、雪の抵抗により前進しつつ旋回することが困難となる場合があります。この場合は、前もって折返し地点を見定め、図のように前・後進を繰り返して、旋回スペースを確保してから旋回すると作業能率が上がります。

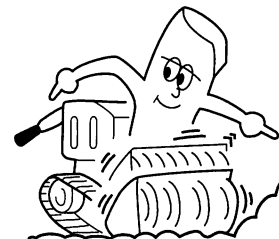


●積雪高がオーガケースより高い場合は、サイドマーカを除雪作業中における除雪幅の目安や除雪側面の切開き、仕上げにご利用ください。



●細い道路や道の両側に塀、建物があり、左右に投雪できない場合は、シュートを前方にし、送り込みながら除雪してください。

●不整地では一般にハンドルロックレバーを前方に押し下げてハンドルをフリーの状態にして、オーガを自由に上下できるようにして除雪します。



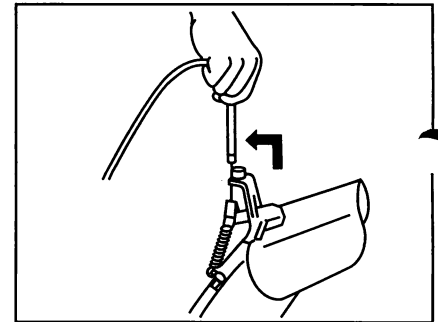
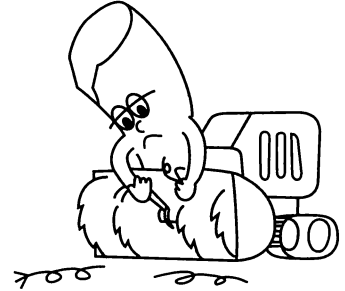
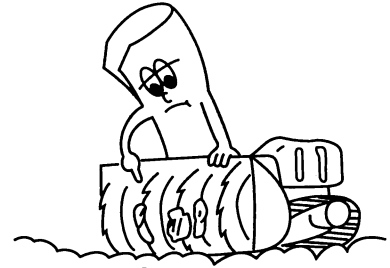
# 正しい操作で安全除雪

## ■運転後の作業と注意事項

- 除雪作業終了後は凍結を防ぐために、オーガケース内とブロワケース内の雪をきれいに取除いてください。
- ブロワおよびオーガ軸にビニールのヒモ類が巻付いていたら、ただちに取除いてください。巻付いたまま運転しますと、オーガミシンのオイルシールを傷め、油漏れの原因となります。
- 本機に覆いをかけるときは、シュートキャップ操作ワイヤを持上げ、ワイヤブラケットから外し、下の方にたたんでください。

### 【注意】

- ワイヤを外さずそのまま覆いをかけますと、雪などの重みにより腰折れし、動きがスムーズでなくなります。



# 正しい操作で安全除雪

## 本体の点検と調整

毎日チェックする項目は5ページの「仕業点検」により励行してください。

不意な始動を防ぐために、エンジンおよび作業機の修理をする際はスパークプラグのコード、バッテリーの(－)ターミナルを外してください。

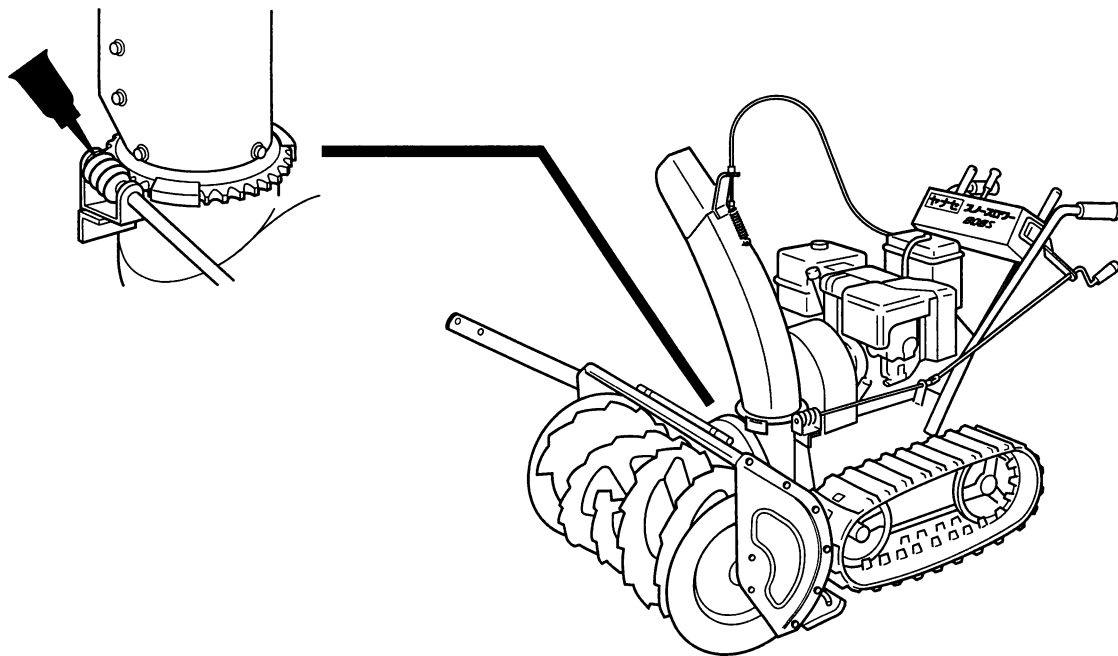
### ●携帯工具

工具は点検・整備には欠かすことのできないものです。常に携帯してください。

### ■注油 (20ページ参照)

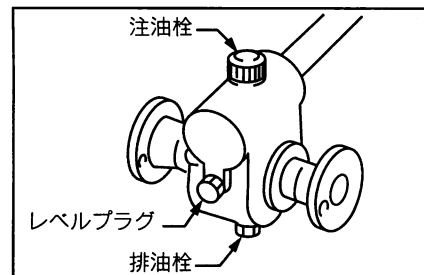
- シュート回転部へ毎日運転前にオイルを注油してください。
- 走行部のローラチェーンには運転10時間毎にオイルを注油してください。
- その他、円滑な動きが必要な箇所への注油も忘れずに行ってください。

# 正しい操作で安全除雪



# 正しい操作で安全除雪

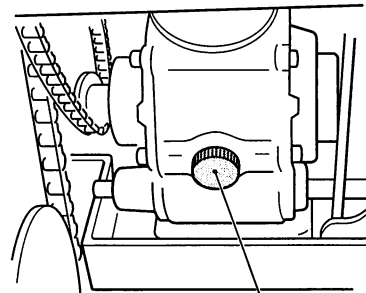
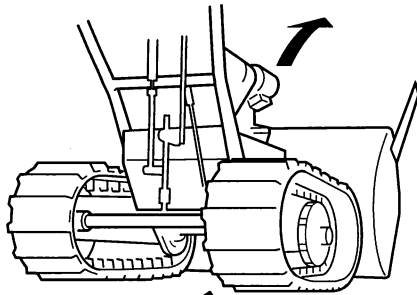
- オーガミッションのギヤオイル（SAE#90、容量 150cc）は、運転 10 時間毎に点検補給し、毎年除雪シーズン前に交換してください。交換手順は、注油栓と排油栓を外し、オイルを抜いてください。完全に抜きましたら排油栓を締め、レベルプラグを外します。次に注油口よりオイルを入れます。量は 150cc ですがレベルプラグ口よりオイルがあふれるまで入れます。注油が終わりましたらレベルプラグと注油栓を締めます。



## ■ミッションのオイル交換

- 走行ミッションのギヤオイル（SAE#90、容量 250cc）は、年 1 回（毎年除雪シーズン前に）交換してください。交換手順は注油栓を外し、オイルを抜いてください。完全に抜きましたら、車両を前方に傾けた状態にして、次に注油口よりオイルを入れます。容量は 250cc ですが、注油栓よりオイルがあふれるまで入れます。注油が終わりましたら注油栓を締めます。注油の際は、ジョッキの先にビニールホース等を付けると注油が楽に行えます。（22 ページ参照）


# 正しい操作で安全除雪




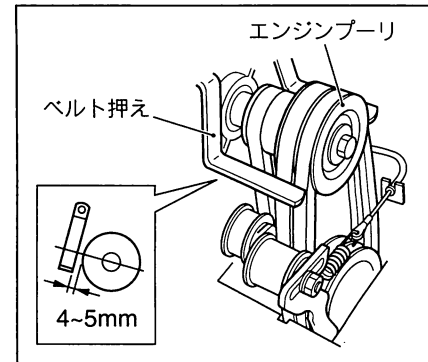
# 正しい操作で安全除雪

## ■調整


### 1) ブロワベルトのベルト押えの調整

オーガクラッチレバーを  にした状態でエンジンプーリが空転し、Vベルトに動力が伝わらないようにベルト押えを調整してください。

オーガクラッチレバーを  にした状態でベルト押えとVベルトの適正感覚は、ほぼ4～5mmです。

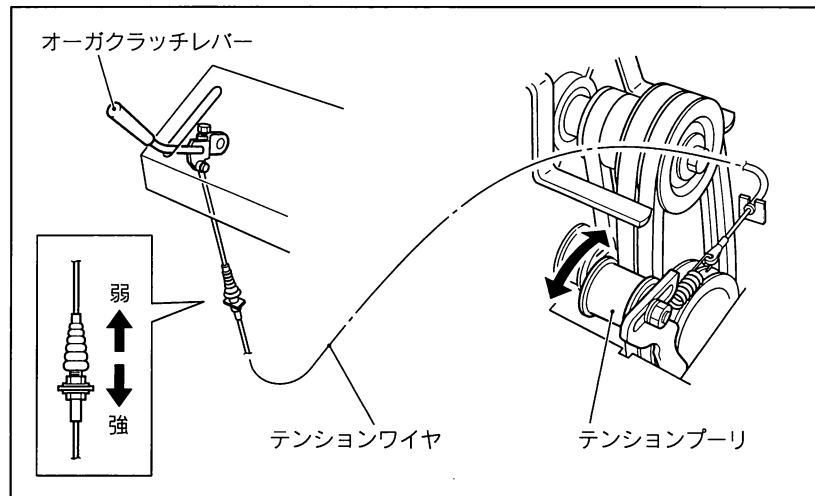


### 2) ブロワテンションの調整

オーガクラッチレバー  の状態でVベルト中央に約5kgの荷重をかけ、たわみ量が10～15mmになるように調整してください。Vベルトの張りが弱いとスリップを発生し、駆動力が低下します。右図のようにテンションワイヤのナットをゆるめて矢印の方向に移動させると、テンションプーリの作動位置が変わり、Vベルトの張りの強弱を調整します。

#### 【注意】

- 上記数値は、Vベルト2本を同時に押した際の荷重およびたわみ量を示します。
- 張り過ぎに注意してください。

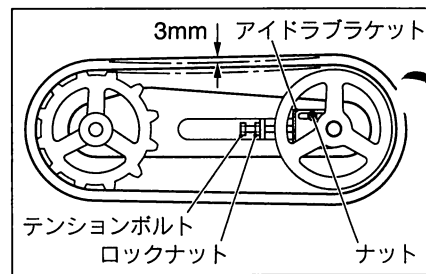




# 正しい操作で安全除雪

## 3) クローラの張り調整

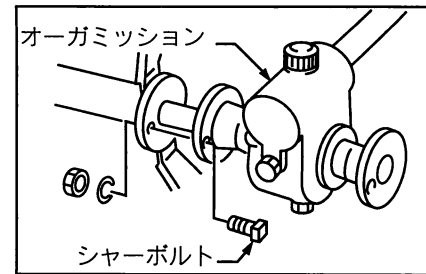
クローラの張りは、中央部でのたるみ寸法が3mmになるのが標準です。  
もし張りが弱過ぎていたり、強過ぎていたりした場合は、アイドラブラケットのナットとテンションボルトのロックナットをゆるめ、テンションボルトによりクローラの張りを調整してください。調整後はアイドラブラケットのナットとテンションボルトのロックナットを固く締めてください。



# 正しい操作で安全除雪

## 4) シャーシボルトの交換

オーガとオーガケースの間に異物が詰ったりして、オーガに過大な荷重がかかるとシャーボルトが切断し、本機の破損を防止します。シャーボルトはオーガミッションの両側のフランジ部に各1個ついています。切断した場合には、スペアのシャーボルトと交換してください。



### 【注意】

- シャーボルトはオーガが異物を嚙んだときに切れずにゆるんでしまう場合があります。また雪中でシャーボルトを交換するとフランジ（シャーボルト取付部の2枚の円板）の間に雪が挟まることがあり、この雪が溶けるとともにシャーボルトはゆるんできます。しかもいったんゆるんだシャーボルトは僅かなショックにより切れることがあります。したがってゆるみによる破損を防止するため、作業時の増締めと、交換10分後に増締めを必ず行ってください。
- シャーボルトはヒューズの役目を果たしています。シャーボルトに他のボルトなどを代用しますと、オーガミッション内部等の破損の原因となりますから純正部品以外は絶対に使用しないでください。

# 正しい操作で安全除雪

## 5) セーフティスイッチの調整

本機には、オーガクラッチレバー 、変速レバー  (前進または後進) の位置ではエンジンが始動しないように安全装置が装備されています。

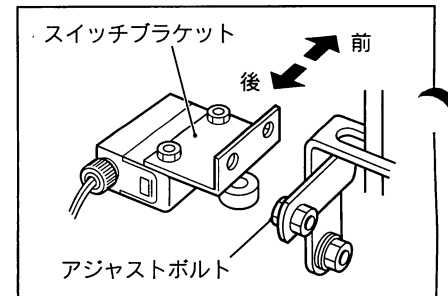
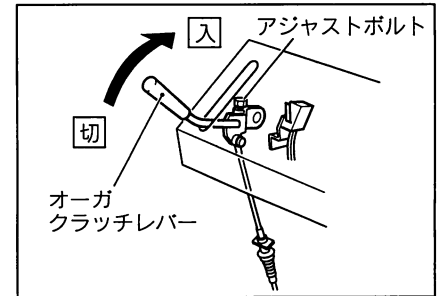
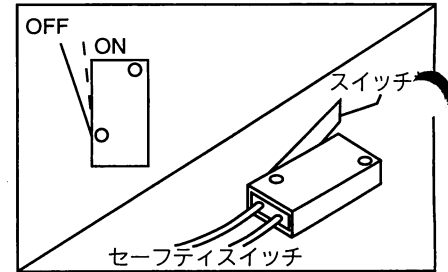
安全な作業が行えるように各レバー部のセーフティスイッチを適正な位置に調整してください。セーフティスイッチがONのときはエンジンは始動せず、OFFのときに始動することができます。

### ① オーガクラッチレバー

オーガクラッチレバー  の位置でセーフティスイッチがON、 の位置がOFFとなるようにアジャストボルトを調整してください。

### ② 変速レバー

変速レバーが  前進 または  後進 の位置でセーフティスイッチがONになるよう (スイッチが押された状態) アジャストボルトの位置を調整してください。



# 正しい操作で安全除雪

## ■Vベルトの点検

傷み具合を確認し摩耗が著しかったり、切れそうになっていたら交換してください。

### ●ベルト交換手順

#### 1) エンジン—ブロワ (LA38)

オーガクラッチレバーを **切** の位置にします。

ベルト押えを解放し、外します。

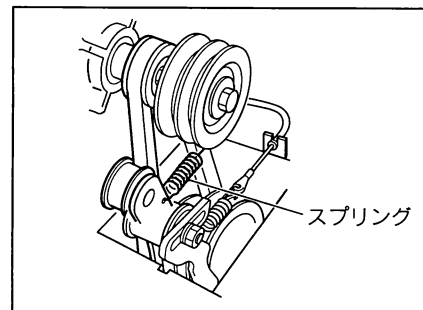
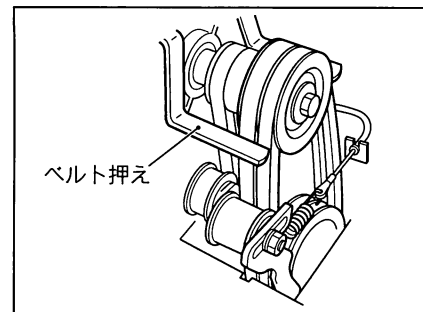
#### 2) エンジン—走行ミッション (LA35)

オートテンション部です。スプリングを解放し、外します。

### 【注意】

●ベルトは油気を嫌いますので注意してください。

●エンジン—ブロワ部ベルト (LA38) は、2本同時に交換してください。



# 正しい操作で安全除雪

## エンジンの点検と調整

点検・調整は平坦な場所で必ずエンジンを停止して行ってください。

不意な始動を防ぐためにエンジンおよび作業機の修理をする際は、スパークプラグのコード、バッテリーの（-）ターミナルを外してください。

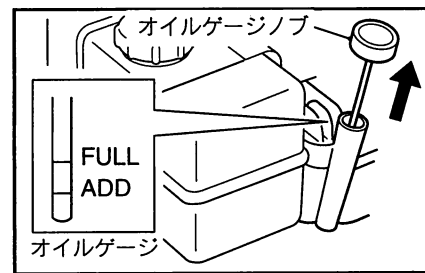
### ■エンジンオイル

#### 1) エンジンオイルの点検

エンジンオイルの量はエンジンの始動前にオイルゲージを抜いて点検し、少なくとも運転5時間毎に必ず点検補給してください。

#### 【注意】

- オイル点検、補給は必ず本機を水平にして行ってください。
- オイル量は、オイルゲージの「FULL」の線までとし、入れ過ぎないようにご注意ください。



# 正しい操作で安全除雪

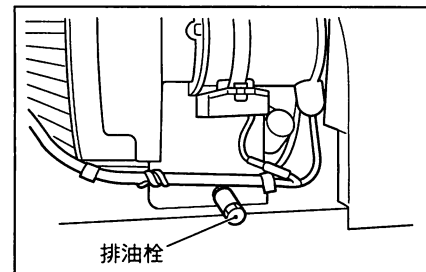
## 2) エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると、エンジンの寿命を著しく縮めます。最初の運転5時間目に第1回目のオイル交換をし、その後は運転時間が25時間に達する毎に、また除雪シーズンが終了したときに必ず交換してください。

- ① オイルゲージを外します。
- ② 排油栓を外しオイルを抜きます。
- ③ 排油栓をスパナで固く締付けます。
- ④ 新しいエンジンオイル 5W-20 もしくは、10W-30 を注油してください。  
(容量 1.3 ℓ)
- ⑤ オイルゲージを差込んでください。

### 【注意】

- オイルゲージは確実に差込んでください。  
浮いた状態ですとマフラから白煙を吹いたり、エンジン不調となります。
- オイルゲージのノブはネジ式になっています。



# 正しい操作で安全除雪

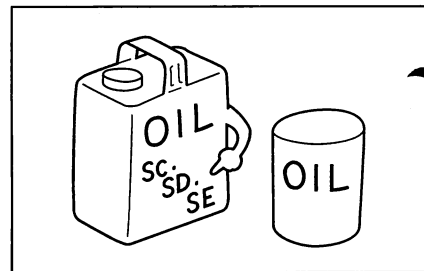
## ●推奨オイル

エンジンオイルは良質な清浄性を有するオイルでAPI サービス等級SF、SE、SD級またはSC級をご使用ください。

(オイルに市販の添加剤を入れないでください。)

[オイルの粘度番号]

SAE5W-20、5W-30 または SAE10W、SAE10W-30 のいずれでも結構ですが、低温時でも粘度がやわらかなオイルとして5W-20、もしくは5W-30をお勧めします。



# 正しい操作で安全除雪

## ■点火プラグの点検・調整

電極が汚れたり、電極の間隔が不相当ですと完全な火花が飛ばなくなりエンジンの不調の原因になります。除雪シーズン初めに取外し、清掃・調整をしてください。

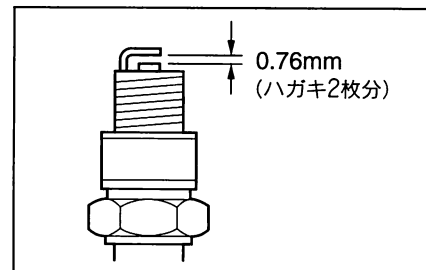
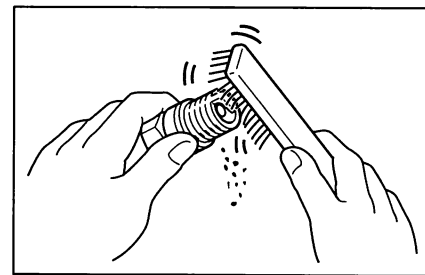
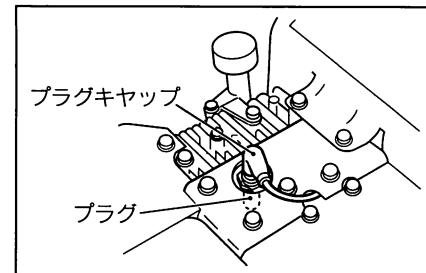
- 1) プラグキャップを取外します。
- 2) プラグレンチとプラグレンチハンドルで点火プラグを取外します。
- 3) 電極部に付着したカーボンを除去します。
- 4) 中心電極と側方電極のすきまを 0.76mm に調整します。
- 5) 取付けは、まず指で締まるまでねじ込み、次にプラグレンチとプラグレンチハンドルで 1/4 回転まわしてください。

(指定プラグ)

CHAMPION ..... RJ19LM

### 【注意】

- 指定プラグ以外の点火プラグは使用しないでください。
- 指定プラグ以外の点火プラグを使いますと、くすぶり、焼過ぎを起こし、始動不良、回転不調、馬力不足、電極の焼損などの原因になります。





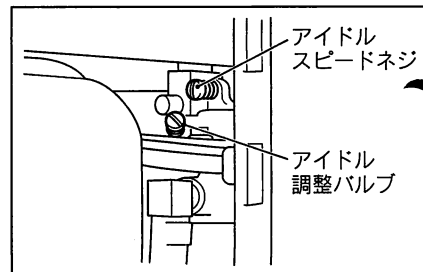
## ■キャブレタ調整

キャブレタの調整は、分解以外にも燃料・温度・高度・負荷等が変わった場合、状況に応じた調整が必要です。

### 1) 予備調整

アイドル調整バルブを時計方向に回して軽く全閉し、次にこのバルブを1.5回転だけ時計の反対方向に回して開きます。

以上の予備調整が終わればエンジンを始動し、暖気運転後に次の最終調整をします。



### 【注意】

●バルブを締めるときは軽くゆっくりと回してください。強く回すとバルブ先端を傷める恐れがあります。

### 2) 最終調整

- ① スロットルレバーを **低速** の位置にします。
- ② キャブレタのスロットルレバーを手でアイドルスピードネジの先端に当るまで押え、アイドルスピードネジを回してアイドル回転数を 1,750r.p.m. とします。

## 正しい操作で安全除雪

- ③ 手で押えたスロットルレバーはそのまま、アイドル調整バルブをゆっくりと時計方向に、エンジンの回転がミスしたり、回転が落ち始めるところまでまわします。(混合気希薄状態)
- 続いてこの位置から反時計方向にアイドル調整バルブをまわし、再びエンジンの回転がミスしたり回転が落ち始める位置をさがします。(混合気濃厚状態)
- 次に希薄と濃厚の中間位置にアイドル調整バルブをセットします。
- ④ アイドル回転数を再度チェックして、必要であれば調整します。スロットルコントロールレバーを **高速** にします。もし加速不良の場合、アイドル調整バルブを約 1/4 回転反時計方向 (濃厚) にまわしてください。

### 【注意】

- エンジンのアイドル回転数を 1,750r.p.m. 以下にしたり、また無負荷最高回転数は 3,600r.p.m. 以上にしないでください。
- 正しい工具とエンジンに関する完全な知識をお持ちでない限り、大がかりなエンジン修理は行わないようお願いします。
- 修理や調整を行う際、安全のためにバッテリーの (－) を必ず外してください。

# 正しい操作で安全除雪

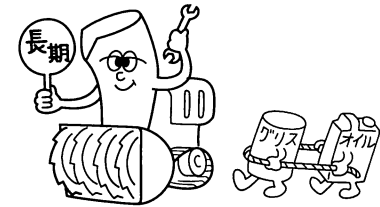
## 保管について

### 1. 日常の保管

- 作業終了後は、各部に付着した雪などを取除いて、回転部の凍結・錆を防止します。
- 屋外に置く場合には必ず覆いをかけてください。特に、操作レバー部・エンジン周辺部には完全にかけてください。覆いをかける前に必ずシュートキャップ操作ワイヤをワイヤブラケットから取外してたたんでください。
- 使用しないときは思いがけないエンジン始動を防ぐため、エンジンキーを抜いてキャップをしてください。

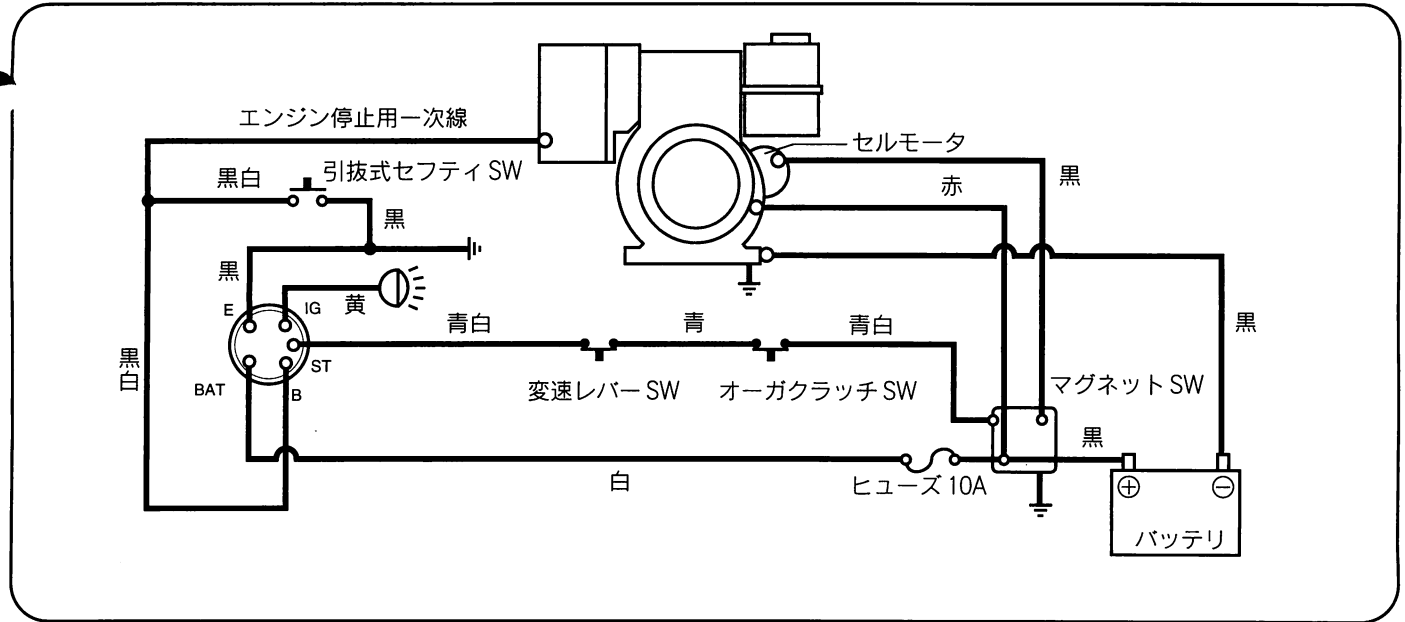
### 2. 除雪シーズン終了後の保管

- 注油の項で説明したすべての注油箇所へ注油し、滑動部および錆の生じやすい軸、オーガ昇降シリンダ軸の露出部などに防錆のためグリースを塗布してください。
- エンジンに関して
  - 1) 燃料タンクの燃料を抜取ります。
  - 2) エンジンをかけ、燃料切れでエンジンが停止するまで回しておきます。
  - 3) キャブレタボウルの燃料ドレンスクリューをゆるめ、ガソリンを抜きます。
  - 4) オイルはエンジンが暖まっているうちに抜き、新しいオイルをゲージの規定量だけ入れてください。
  - 5) エンジン内部の防錆のために点火プラグを外し、約15ccのエンジンオイルをプラグ穴から注油し、数回エンジンスイッチでエンジンを回してください。
- バッテリー液は、シーズン前・後に点検してください。
- バッテリーを長持ちさせるためにバッテリーを外し、充電してください。
- 部品が消耗していたり、傷んでいたら販売店に連絡し、シーズンオフの間に整備して置いてください。
- お手入後は湿気のないところへ保管してください。



# 正しい操作で安全除雪

## 配線図



# 正しい操作で安全除雪

## 保証について

お買い求めいただいたスノースロワー 808S は、納入日より1年間の保証が付いております。

なお、エンジンは本体が納入日より2年間、「MAGNETRON」(マグネトロン)、イグニッションは5年間の保証が付いております。

販売店より納入時にお渡しいたしました保証書は、アフターサービスをお受けいただくためにも大切に保存してください。保証期間中であっても保証書のご提示がありませんと、有償サービスをお願いすることになりますので、ご注意ください。

## 性能・諸元表

名 称		スノースロワー 808S	
型 式		IZ-Y808S	
性能	除 雪 巾	782mm	
	除 雪 深 さ	500mm	
	除 雪 能 力	48t/時	
	除 雪 距 離	最大 13m	
	走 行 速 度	前進 (L) 450m/時 (H) 1500m/時 後進 (L) 450m/時 (H) 1500m/時	
	最 小 回 転 半 径	その場回転	
除雪装置	除 雪 装 置	ツーステージ形	
	投 雪 範 囲	左右角 110 度	
	オ ー ガ 巾	750mm	
	オ ー ガ 径	406mm	
	オ ー ガ 回 転 数	155r.p.m.	
	オ ー ガ 駆 動 法	センタードライブ	
	ブ ロ ヲ 回 転 数	1,550r.p.m.	
エンジン	名 称	ブリクス&ストラトン	
	型 式	モデル 196437	
	排 気 量 ・ 出 力	319cc 8PS/3,600r.p.m.	
	使 用 燃 料	ガソリン	
	燃 料 タ ン ク 容 量	3.6 l	
	始 動 方 式	12V セルモータおよびロープリコイルスタータ	
	バ ッ テ リ	26A19L (12N24-3) (24Ah)	
機体仕様	機体寸法	全 長	1,600mm
		全 幅	782mm
		全 高	1,090mm
	走 行 装 置	ゴムクローラ	
	接 地 圧	0.09kg/cm <sup>2</sup>	
	重 量	190kg	

good new days  
人間らしい美しい未来を

ヤナセ

総発売元

株式会社 ヤナセ

商事事業部

東京都港区芝浦 1-6-38 〒105

電話 東京 (03) 3452-4311 (大代表)

製造元

石狩造機株式会社